

【補足(追加)資料】

No. 17 学校給食センター運営事業 (P 1)

- 学校給食センターの概要について

No. 18 エコフロー事業 (P 2～)

- 学校エコ改修と環境教育の歩み
- 地域創生フォーラム in いよ チラシ

学校給食センター運営事業について

1 施設の概要（伊予市学校給食センター）

南山崎小学校給食室

北山崎小学校給食室

郡中小学校給食室

伊予小学校給食室

港南中学校給食室

中山給食センター

双海給食センター

統合

伊予市学校給食センター

所在地：伊予市大平甲911-2

供用開始：平成28年9月1日



●敷地面積 5,889.34 m²

●本体面積 1階 2,254.78 m²（調理場、事務室など）

2階 668.38 m²（見学通路、会議室、職員休憩室など）

計 2,923.16 m²

●その他 給食配送車車庫、ポンプ室など

●施設に特徴

①ドライシステムの採用

②熱源にオール電化（電子厨房機器）を採用

③2階に見学通路及び会議室を設置

④防災用自家発電装置の設置

2. 職員配置（R5.3.31）

事務関係者 3人、管理栄養士 1人、栄養教諭（県配置）3人、

給食調理員 24人（正規調理員3人、調理師8人、調理支援員13人）

3. 調理数 1日約3,100食

4. 運営形態 公設公営（配送業務のみ民間委託）

5. 給食費（1食あたり） 小学校 250円、中学校 285円

6. 補助金

●子育て支援学校給食費補助金

●学校給食費高騰対応事業費補助金

光と風と香の翠小学校

学校工コ改修と環境教育の歩み





平成18年度上期、学校工口改修と「新校舎」のモデル校として全県で有名な本校で、本校の工口改修がスタートしました。多岐にわたる環境整備（緑化、児童館、シンボル）の小学校は、少子化などによる児童生徒数の減少により休校となる公立学校が多いため、地域住民や教職員、児童生徒の協力を得て、本校の改修が実現しました。本校の改修は、地域の新たな発展、発展としてとどまらずに、児童生徒の生活の質を向上させることのできるもの、平成19年7月に始まる工口改修関係者から平成22年3月まで継続しての事業の報告をまとめた、工口改修と環境整備をとおして、安全で安心な校舎、文化物として、本校のシンボル、コミュニティとして生徒に受け継がれたことを報告としてまとめました。



21世紀に向けて輝け
光と風と香の翠小学校



100年後まで
残ります



●かわせみのモニュメント、建物のソーンに設置



●緑のソーンの空間 エコデッキ・ピクトーブ



●みんなで校舎の障材を建てたエコロック



●学校田での集まり



●浜太郎祭り前のガートレード



●浜太郎を教え、トップエクト

香りを大切に
しました



●太陽光発電、風の発電、トーマー室



●太陽光、風力発電でまかなっている給食の表示



●太陽パネル・ストロークの設置

快適を目指し
ました



●屋外敷居で校庭の垣の運びを体験



●児童で校庭の空気の流れを体験 (改修前)



●廊下でひなたぼっこ (改修前)

光と風の恵みに
気が付きました



●2010年 エコ改修と環境教育に参加した全児童



●観後に設置しなおした二宮堂及廊下



●毎年 恒例の上瀬川の水辺設置



●ホテル滞りての子ともたちによる祭典



●チャーターワゴンに使用する太陽熱集熱パネル



●光データ・天窓などで校舎を明るくし



●西日のまぶしさを改善 (改修前)



●中学年研究発表、ソーラーカー



●2009年 築77年の校舎ご別れ



●運動会は、伝統の形のままライオン祭り



●集ついた森を新しく



●太陽光のエネルギーを感じる授業



鹿児島「学校工口改修と環境教育事業」の目的は、学校を舞台に、工口ひととつくり、工口をぐるぐりをを行うことにあります。地域の一番身近な教育施設である学校を工口改修しそのプロセスにおいて、環境教育を併せて行うことで健康性能の向上だけでなく、運用方法や人の意識を改修し省エネルギー化を推進します。実践的現場教育を通して、地域技術者、教師、児童生徒、保護者、そして地域社会全体へ工口を広めていきます。

翠小学校は昭和62年から毎年閉鎖されているホタル祭り
の会場ともなっており、町の中心的存在でもあります。
一方、築75年（平成19年当時）が経過した木造校舎は、
老朽化や耐震性の問題、隙間風による湿気など過熱環境の
問題を抱えています。設計者は、工口改修時湿度や地域
性風、児童とのワークショップ、環境教育との連携で下記
の目標を立てました。

8つの改修目標

- ① 過熱・光・通風環境の改善
- ② 地球環境への配慮・自然エネルギー導入
- ③ 耐震改修と老朽化の改善
(築75年の木造校舎を更に寿命を延ばす)
- ④ 学校を環境教育、工口情報の発信基地として
位置づけ また校地全体を学習空間と捉える
- ⑤ 新しい教育環境、成長に伴う学習環境、
生活の場としての改善
- ⑥ 安全性の確保
- ⑦ 地域との連携、交流拠点としての学校を目指す
- ⑧ 新しい学校としての可能性や価値の創造

校区人口 ● 約740人
世帯数 ● 約260世帯
児童数 ● 23人
翠小学校校区データ（モデル事業取組当時）

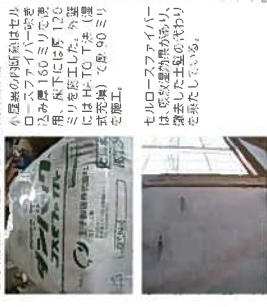
① 温熱・光・通風環境の改善



冬とても温かくなりました

省エネルギー化/温熱

●小窓裏・外壁・床下の断熱強化



小窓裏の断熱はセルロースファイバーを150mm厚に敷き、床下には厚125mmの断熱材を敷き、外壁にはTCT法（断熱材を吹き付け）を施工し、外壁の断熱強化を図っています。

セルロースファイバーは、吸音効果があり、健康に配慮した素材の代わりを担っています。

省エネルギー化/日光利用

●開口部



断熱性能を向上させるため、開口部には断熱性能の高いガラス（低放射率ガラス）を採用し、断熱性能を高めています。

開口部には断熱性能の高いガラス（低放射率ガラス）を採用し、断熱性能を高めています。

●光ダクト



光ダクトは、天井から室内へ自然光を取り入れることで、省エネ効果があります。

光ダクトは、天井から室内へ自然光を取り入れることで、省エネ効果があります。

●トップライト



2つの屋根上部にそれぞれ設置し、冬は太陽光を取り入れ、夏は遮熱効果があります。

2つの屋根上部にそれぞれ設置し、冬は太陽光を取り入れ、夏は遮熱効果があります。

省エネルギー化/通風

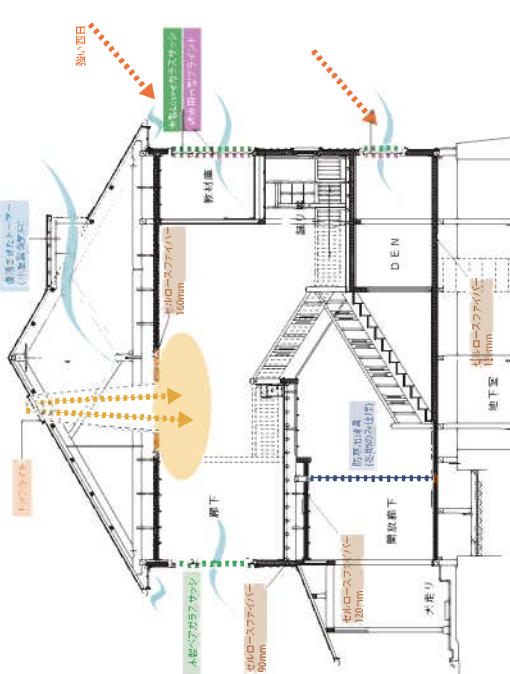
●小屋裏換気



屋根裏の換気に専用の換気扇を設置し、小屋裏の湿気や熱気を排出しています。



虫の侵入防止のために、窓には防虫網を設置しています。



② 地球環境への配慮・自然エネルギー導入



CO2は46%/年間削減したよ

代エネ新エネの導入/自然エネルギー

●太陽光発電・風力発電の導入



太陽光発電（屋根下6.6kW）



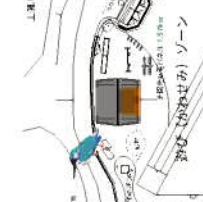
上笠の風車（風力発電1.0kW）



太陽熱温水器



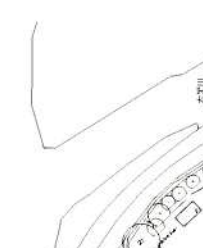
雨水利用/散水に使用



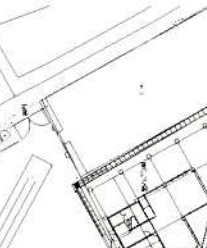
節電スイッチ



太陽熱温水器



電力の見える化



節電スイッチ



節電スイッチ

③ 地球環境への配慮・自然エネルギー導入



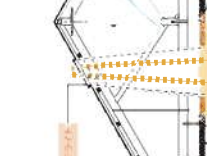
CO2は46%/年間削減したよ

代エネ新エネの導入/自然エネルギー

●太陽光発電・風力発電の導入



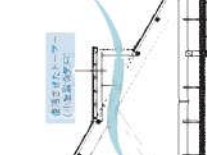
太陽光発電（屋根下6.6kW）



上笠の風車（風力発電1.0kW）



太陽熱温水器



雨水利用/散水に使用



節電スイッチ



節電スイッチ



節電スイッチ



節電スイッチ



節電スイッチ

⑤ 新しい教育環境、成長に伴う学習環境、生活の場としての改善

1. 学校としての環境づくりの改善は、子ども達の成長の場となる。成長に伴う学習環境、生活の場としての改善は、子ども達の成長の場となる。成長に伴う学習環境、生活の場としての改善は、子ども達の成長の場となる。

「小学校をもっとたのしく！」



●多様な学習に対応するために、教室間の仕切りが取り除かれ、開放的に。



●高学年のための自由コーナー



●廊下の空間は、より開放的に改修し、一休室の活用が図られている。



●机配置での授業料、柔軟な授業



●ランダムルームには住民も利用可能
●Hクォーター
●ランダムルームは住民も利用可能
●メディアステーションの中心に、PC室
●冬のハイパスルート

⑥ 安全性の確保

土方面での安全対策等を行うことにより、安心・安全な環境づくりを進めています。また、交通安全教育や防災教育など、安全に関する取り組みも積極的に進めています。



⑦ 地域との連携、交流拠点としての学校を目指す

学区のコミュニティ、ローカルなネットワーク、同僚学校ネットワークを、地域や企業との連携、交流の拠点として活用しています。また、地域の子ども達との交流も積極的に進めています。



⑧ 新しい学校としての可能性や価値の創造

従来の学校が、単に知識を教える場から、子ども達の成長を促す場へと変わっています。また、地域との連携も積極的に進めています。

風の子、香の子、光の子 翠小エコキッズ



環境教育では、子どもたちが主体的に活動し、学び、成長する機会を提供することが重要です。本校では、環境教育を推進するために、環境教育委員会を設置し、環境教育の推進を図っています。また、環境教育の推進を図るために、環境教育委員会を設置し、環境教育の推進を図っています。また、環境教育の推進を図るために、環境教育委員会を設置し、環境教育の推進を図っています。



●環境教育委員会による環境教育



●環境教育委員会による環境教育



●環境教育委員会による環境教育



●環境教育委員会による環境教育



●環境教育委員会による環境教育



●環境教育委員会による環境教育



●環境教育委員会による環境教育



●環境教育委員会による環境教育

環境教育の推進を図るために、環境教育委員会を設置し、環境教育の推進を図っています。また、環境教育の推進を図るために、環境教育委員会を設置し、環境教育の推進を図っています。



●環境教育委員会による環境教育



●環境教育委員会による環境教育

環境教育の推進を図るために、環境教育委員会を設置し、環境教育の推進を図っています。また、環境教育の推進を図るために、環境教育委員会を設置し、環境教育の推進を図っています。



●環境教育委員会による環境教育

文化財としての価値を 残す改修を心がけました



100年後まで
残します

本校が100年後まで残す文化財としての価値を、改修工事を通じて残すことを目指しています。また、改修工事を通じて、文化財としての価値を残すことを目指しています。また、改修工事を通じて、文化財としての価値を残すことを目指しています。



●廊下の床板は既存の床を撤去し、新築



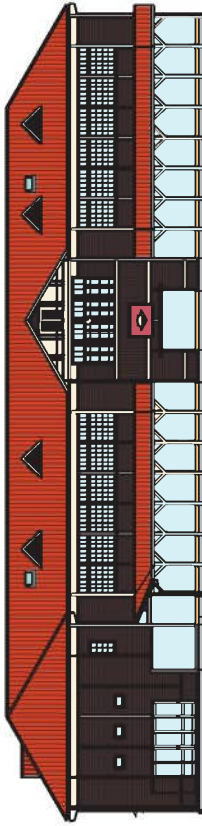
●壁紙は既存の壁紙を撤去し、新築



●廊下の照明は既存の照明を撤去し、新築



●壁紙は既存の壁紙を撤去し、新築



環境性能が大幅にアップ!
CASBEEが2ツ星から
5ツ星になったよ!



●CASBEE 学校による対策効果の見える化

現地調査/建物性能に基づく評価ツールである
CASBEEを用いて、学校施設を総合的に評価

対策前 BEE=0.7 ★★

対策後 BEE=3.9 ★★★★★

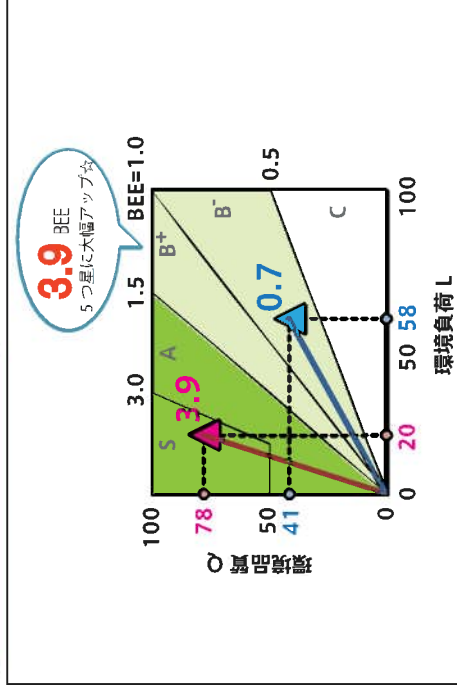
※BEE：建物の環境性能効率

→ 改修によりつづつ星が5つ星に改善

→ 対策効果のわかりやすい表示により計画

・教員の環境意識の向上に貢献

エコ改修後の CASBEE 評価



長崎県立大学 伊香賀環境研究センター

「CASBEE: Comprehensive Assessment System for Building Environment Efficiency (建築環境総合評価システム)」は、建築物の環境性能を評価する標準的な方法である。当エネルギーや環境負荷の少ない建築物の発見と評価を促進はもとより、室内の光熱生や環境への配慮なども含めた建築物の性能を総合的に評価するシステムである。

「BEE (建築物の調査・評価、Bul. Environment Efficiency)」

広報いよし
October 2017 No. 150
10月号

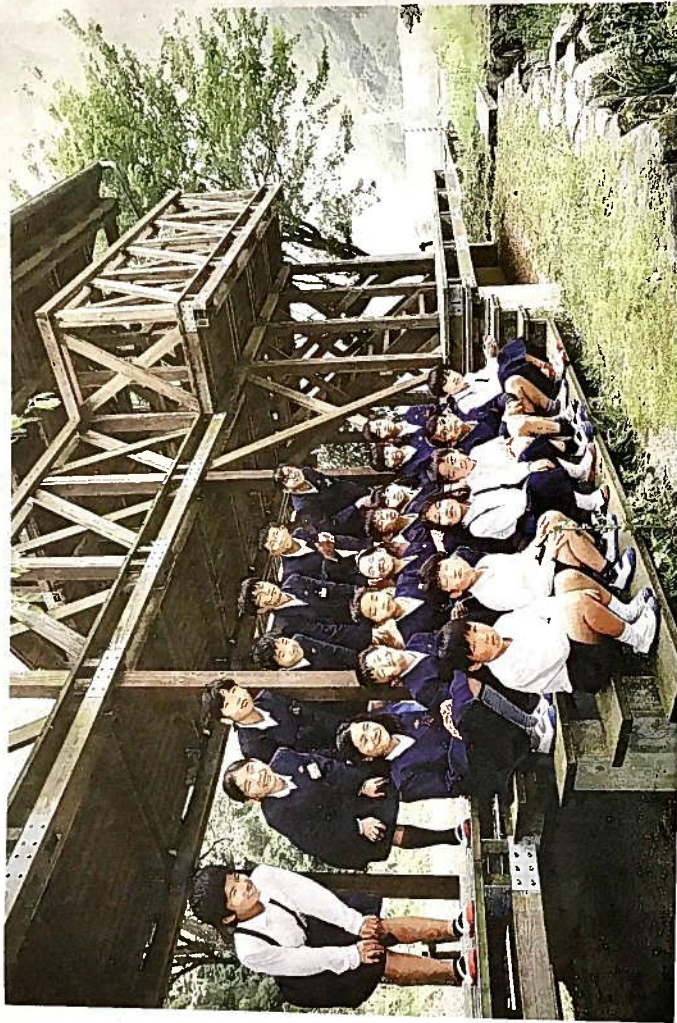


温もりが育む
子どもたちの笑顔



光と風と香の
翠小学校





ピントの小学校紹介 読もう！

翠小学校 伊予市

清流上灘川沿いの田園風景に、堂々とした木造校舎が溶け込む伊予市双海町上灘の翠小学校。豊かな環境の中で、児童たちは地域の自然や住民との触れ合いを重ねている。

2007年から3年間、環境省事業で県内現役最古の木造校舎を改修。主要構造と外観を残しつつ補強し、太陽光発電やビオトープを備えたエコ校舎として生まれ変わった。

学校は地区行事の「ほたる祭り」の会場にもなり、児童は学校田で育

てた米で餅を作り提供している。

6年の曾我部真暖さん(11)は「自然が豊かで、みんなで協力して行うほたる祭りが楽しい」と笑顔。伊藤優希さん(11)は「地域のひととの行事や触れ合いが多く、みんな温かい」と魅力を語った。(金尾公貴)

エコ校舎で地域交流

【沿革】1874年開校。現在の校舎は1932年に完成。児童数は22人(4月現在)。



あとがき

木造校舎のエコ改修は、子供たちにとってもいい教材となった。日本の義務教育で教わる建築分野は家庭科の授業で数時間に限られる。建築の仕組みのこと、文化としての建築の大切さ、地域の循環型社会を形成する上で主役になりうる木造建築のこと、環境に優しい建築のこと、大人になるまでおそらく勉強することはないで成長する。専門家による環境教育を受けながら隣で行われている工事を子供たちは教材とすることで、校舎の仕組み、環境建築のことを学習できたことは大いなる成果であった。児童自ら去る2月11日の祭日を利用し教師、父兄、地元住民と一緒に引越し作業をした。改修工事と環境教育がひと段落し、仮設校舎から移った笑み万面の子供たちは、引越し直前の完成見学会でも、児童から二酸化炭素削減目標の質問が飛び出すほどで、以前にもまして環境への意識が高まった様に思う。3年間の環境教育を通して、次の世代の子供たちは地域にとって大切なものが何か、地球環境に対して自分たちにも出来ることは何かを掴んだようである。

ますます、いよし。

翠小学校エコフロー事業10周年記念



伊予市

地域創生フォーラムinいよ

ドリームメンバーによる豪華対談！！

本当にこんなゲストが伊予市に！さてどんな話が飛び出すか！

○日時 令和2年5月30日(土) 13時00分～16時30分

○場所 IYO夢みらい館 大ホール (定員382人)



愛媛県知事

中村 時広 氏



ソフトバンク株式会社
代表取締役 社長執行役員 兼CEO

宮内 謙 氏



前内閣府特命担当大臣
参議院議員

片山 さつき 氏

第1部：【検証報告】「翠小学校エコフロー事業と持続可能な地域づくり」

【記念講演】「最先端テクノロジーを活用した地方創生」

第2部：【パネルディスカッション】—持続可能な地域づくりの実践から
地方創生の実現に向けて—



聖カタリナ大学人間健康福祉学部長

恒吉 和徳 氏



慶應義塾大学理工学部教授

伊香賀 俊治 氏



伊予市長

武智 邦典



入場者を募集します！入場無料

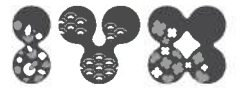


※入場には申し込みが必要です。詳細は裏面をご覧ください。

○主催：伊予市 ○特別協賛：ソフトバンク株式会社 ○協力：聖カタリナ大学 (公社)日本建築家協会四国支部
○後援：愛媛県 愛媛県教育委員会 えひめ地域政策研究センター 愛媛新聞社 朝日新聞松山総局
NHK松山拠点放送局 南海放送 テレビ愛媛 愛媛朝日テレビ あいテレビ

「地域創生フォーラム in いよ」

ますます、いよし。



伊予市

○日時 令和2年5月30日(土) 13時00分～16時30分

○受付 12時00分～

○場所 IYO夢みらい館 (住所: 伊予市米湊 768 番地 2 Tel 089-909-3266)

■第1部 13時00分～【検証報告】伊香賀 俊治 氏 (慶應義塾大学理工学部教授)

「翠小学校エコフロー事業と持続可能な地域づくり」

内容: 翠小学校エコフロー事業10周年記念事業で検証結果を報告

【記念講演】宮内 謙 氏 (ソフトバンク株式会社 代表取締役 社長執行役員 兼 CEO)

「最先端テクノロジーを活用した地方創生」

内容: 企業目線からの地方創生について講演

～休憩～

■第2部 14時40分～【パネルディスカッション】—持続可能な地域づくりの実践から

地方創生の実現に向けて—

○コーディネーター 恒吉 和徳 氏 (聖カタリナ大学人間健康福祉学部長・教授)

○パネリスト 中村 時広 氏 (愛媛県知事)

宮内 謙 氏 (ソフトバンク株式会社 代表取締役 社長執行役員 兼 CEO)

片山 さつき 氏 (前内閣府特命担当大臣 参議院議員)

武智 邦典 (伊予市長)

内容: 地方創生に資する最先端の事例、官公庁からの情報、地方創生へのアイデアを持つ有識者等が登壇し、今後の地方創生に向けた取り組みのポイントなどを共有できる場として開催します。

『申込方法』

入場には、事前に申し込みが必要です。FAX、ハガキまたは電子メールのいずれかに次の①～⑤を全てご記入のうえ、「申込・問合せ先」へお申込みください。

① 氏名 ② 郵便番号 ③ 住所 ④ 電話番号 ⑤ 年齢

『申込締め切り』

令和2年4月10日(金) (郵送の場合は消印有効)



『入場証について』

申込みをされた方には、後日入場証を送付します。(令和2年4月下旬発送予定)

なお、申込件数が定員を超えた場合は、抽選により入場者を決定し、当選者に入場証を送付します。

『申込・問合せ先』

〒799-3193 伊予市米湊 820 番地

伊予市教育委員会 学校教育課「地域創生フォーラム in いよ」担当

TEL 089-989-9871 (土日祝を除く、平日9時～17時)

FAX 089-982-5156

電子メール g-kyouiku@city.iyo.lg.jp

「地域創生フォーラム in いよ」申込書

① 氏名		④ 電話番号	
② 郵便番号	〒 -	⑤ 年齢	
③ 住所			